

# シェアハウスから始まる新しい交流 地域 × 学生



シェアハウス大町（大町3）は、地域の活性化と町家の市場流通の促進を図るため、市が既存の町家を改修した学生向けシェアハウスです。地域と入居者の学生との交流について、大町3丁目町内会長の鳴海壽一さんにお話を伺いました。



大町3丁目町内会  
会長 鳴海 壽一さん

昨年7月には、大町通りで開催される二・七の朝市にあわせて、入居者の学生からシェアハウスの土間を利用した休憩所を開いても

らい、とても好評でした。



また、昨年10月には、地元の大町小学校の児童と地域住民を招いて干し柿

作りを行い、町内会も協力しました。柿の皮むきに不慣れた児童が多い中、学生や町内の人から教わりながら貴重な体験になったのではないのでしょうか。

今後とも地域との交流に関して、入居者の皆さんの考えを尊重しながら、町内会でサポートしていきたいと考えています。

## 「シェアハウス大町」入居者の声

私が入居したきっかけは、友人に誘われて宿泊体験に参加したことです。宿泊体験をする前は実際に住む気は全くなかったのですが、昔ながらの雰囲気が漂う雁木通りやフリースペースの吹き抜け部分の造りなど、昔の家の良いところを残しながらリノベーションしているところがとても素敵に感じました。



特に、私が気に入ったのは、家の中に木の香りが残っていてとても落ち着くところと、キッチンやお風呂が広く、完備されているところです。

実際に住んでみて、初めの半年くらいは一人だったので少し寂しかったのですが、平成30年の春から4人が入居してきて、

今は楽しく暮らしています。家の中で会話があるっていいことですね（笑）。チーズタッカルビやチーズフォンデュ、たこ焼きなどみんなで食べたりしています。ご近所さんをはじめ、地域の方々もとても親切で、よく気に掛けてもらっています。昨年秋、入居者を中心に大町小学校の小学生と干し柿作りを体験しました。事前に練習のため作ってみましたが、初めてでも楽しく作られて、先日おいしくいただきました。こうした交流は、地域の方々の協力があったからこそ成功したのではないかと思います。

そしてこの春、学校を卒業すると同時に、シェアハウス大町からも卒業することになります。地域の皆さん、今までありがとうございました。